Nちゃんと Y先生(2)

～自閉症児を担任した一年間の保育記録～

田代　和美

十一月二日（火）

今日は弁当時、私は廊下から見ていてNひとりに準備をさせた。しっかりランチョンマットは敷くし、お弁当もその上に乗せられる。私が側にいるとやってもらいたくなるのか、なかなか準備しないのに。今週に入りまたNの笑顔がよくみられるようになってきた。私の考え方次第、見方次第でNの行動を良くも悪くも捉えられるような気がする。今日は本に出てくる楽器を言って私に描かせるなど今までにない遊びを始めた。最近、帰り際に絵本コーナーに行き、身支度しようとしない。やや強引に園服の袖を通すが脱いでしまう。一番最後になり「先生は先に行きます。ひまわり組には誰もいないよ」と言うとやっと園服を着ようとする。

十一月五日（金）

登園時、遊び始める前に園服を脱がせた。カセット

コーナーに行き、突然泣きそうな顔になり、私の側にくる。泣くなと思い、抱いて背中をたたいた。泣きだした。何が原因かわからなかった。初めは何の意味もなく泣いているのかと思った。次に園服をやや強引に脱がせたのが原因かと思った。とにかくなぐさめた。泣きやんでも10秒くらいしてすぐまた泣き出す。「仮面舞踏会」「君がいるだけで」とカセットの曲名を言う。「あるよ」と渡しても泣き続けている。パンプキン（幼児用のテープレコーダー）に二本のカセットを入れようとする。その時わかった。いつもパンプキンが二個おいてあるのに今日は机の上に一個しかおいてなかったのだ。部屋の中を探してもあとの一個が見つからず泣いていたのだ。Nも言葉で意志を伝えられず苦しかったと思う。これから先たくさんこういうことがあるのだろうなと思った。パンプキンのない時の泣き方に比べ、お帰りの際の園服を拒む姿は違っている。分かっていてわざとやらない感じである。もう少し厳しくしても大丈夫そうだ。Nは力があるので私が抑えきれない時がある。私から逃げられるとNは笑っていたりする。めんどうだという思いと楽しんでいる所もあるのだろうか。とにかく来週一杯くらい方針を変えて様子を見てみよう。

十一月八日（月）

初めて幼稚園でうんちをした。いやがるNを強引にトイレに連れて行く。便器に座らせようとするが私ひとりの力では座らせることができない。O先生と二人がかりで便器に座らせる。しかしすぐに立ち上がり六歳児とは思えない程の力で抵抗する。うんちは出そうだしパニック状態になっている。「かわいそうだおむつを使おう」と頭をよぎるが、お母さんだってがんばっているのだから私も負けられないと心を鬼にした。ゆっくり大きな声で「S・Nちゃん」と呼びかけた。「大丈夫」の声を連発した。便器に座って少しうんちが出た。片手でNの体を支えもう片方の手でおなかをさすった。足に鳥肌がたっている。力の入れ方が分からない様に思えたので「んーんーとおなかに力を

入れるんだよ」と説明した。一生懸命私の真似をして「んーん！」と言う。たくさんでた。とにかく大荒れだった。おかあさんひとりの力だと疲れきってしまうのではないかと思うほどだ。お母さんに暴れたがうんちができたことを伝えると涙ぐんでいた。うんちをした後はいつもの通りの安定した様子になった。シャワーにも少しなれてくれたように、うんちを便器でするのは怖くないのだと思えるようになってほしい。

十一月九日（火）

ボールは先週より私の中で経験させたいと思い、少しずつ私からボールを投げたりしていたがずっと無関心だった。今日初めてボールの受け渡しが成立し、Nから笑顔も出た。転がしたボールを目で追うことができるようになったのも嬉しいことだ。毎日少しずつ遊びを取入れていこうと思う。

十一月十日（水）

ボールを受け取ること、拾うことよりもそのボールを私に向かって出すことはNにとって勇気のいることで緊張の一瞬らしい。ボールを渡すことにはそれほど緊張はないが、離れた所から（それがほんの目と鼻の先程の距離でも）だと、まるでNの大切なものが一瞬誰の手の中にもなくなるのが不安だという感じも受ける。でも私が受け取る時笑顔を見せる。私も嬉しくなる。私が転がしたボールをすぐには追って行かないが、「Nちゃん、先生にボールちょうだい」と手の平を合わせるジェスチャーを交えながら言うと拾いに行く。ボールを投げ合うことは必ず相手が必要になる。今までのひとり遊びから相手が必要な遊びに向かうことができるか分からない。楽しさが分かるまで続けられればよいのだが、長い目で見て練習しよう。

Nはつき組、ほし組、ひまわり組のパプワくん（アニメの主題歌のカセットテープ）を集めてきて遊戯室で聞くのが好きだ。毎日の日課的遊びになっている。一〇時頃つき組のカセット置き場に行ったがパプワくんがなかったのであきらめたようだ。しかし一〇時五〇分頃つき組のSが使っているのを見つける。血相を

変えて近くに行き、「ちょうだい、かしてちょうだい」と言ったり、わーわー半泣き状態でとにかくほしいといった感じになる。N自身うまくSからカセットを借りられない自己嫌悪もあるのかもしれない。SはNの行動にわけが分からず困惑している。Sは「なぜ急に、よく知りもしない子がパプワくんがほしいと泣くのか。別のパプワくんも持っているのに、これもほしいのか?」。Nに対して謎だらけだっただろう。Sは今回のようなNとの関わりは初めてだった。もう少し幼い子ならばNに対して絶対貸さないと言い張ったかもしれない。またNと接する機会の多い子は、仕方ないと思って貸したかもしれない。Nがやや強引に取ったともいえるテープの代わりにSにはちっとも聞きたくないであろう別のテープをNと一緒に渡しに行った。その私の行動には何の意味があったのだろう。後から考えると分からない行動だったとも思える。ただその時の私の気持ちは、Sの本当は貸したくないという気持ちにも気づいてほしい、欲しい物を手に入れる時、相手の気持ちによって貸してもらえない時もあるし、貸してもらうための方法が一種類ではないことを知らなければうまくいかないことを分かってほしいということだった。

一つの場面だったが私にはたくさん考えさせられる場面だった。以前ならこんなに深く考える場面ではなかったかもしれない。でも自閉と言われる問題の根本的な所でもあるように思える自分になった。私自身「なぜ?」と思う行動もたくさんあるが、それでも今の素直な気持ちはNと出会えてよかったという思いだ。

十一月十一日（木）

絵本の部屋で本棚の上から私にめがけてジャンプする。いけないことだが、楽しいらしく何度も「乗せてちょうだい」とせがむ。なるべく「先生のせてちょうだい」、または、私の顔を見て「のせてちょうだい」と言えるように練習している。誰に言っているのか相手に伝わり易くなるように……。

十一月十五日（月）

日曜日にうんちが出たそうだ。最後の最後で便器に自分から座ったそうだ。お母さんが「できたことをY先生に言おうね」と言うとニコッと笑ったそうだ。偶然の笑顔かも知れないが、お母さんがそういう言葉をNにかけてくれた事も嬉しかった。楽器への興味はまた強くなり、今度は小さな太鼓を叩く。本当に音楽関係が好きなのだなと思う。おえかき帳に楽器の絵を描いてあげた。毎日よく見ている。

十一月二〇日（土）交流クラスでの誕生会

誕生会中はできるだけひとりで座っていられるように私は少し離れた所に座った。私の事を見つけるまでは座っていた。今までと違い私を見つけて側にきた後、またひとりで座らせると座っていた。ただし五分くらいの短い時間だったが。

十一月二十七日にE（女児）が入園し、私（Y先生）が担当になる。

十二月一日（水）

Eは園庭に行きたいが、Nは遊戯室に行きたい。Eはまだひとりで行くのは不安で私を待っている。Nも私と行きたくて手を引っ張る。所持品の始末でNに関わっていたのでここは先にEと園庭に出た。その時N

は半べそのようだった。Eと飛行機ジャングルに行き、三分ほどでNの所に戻り、遊戯室に行った。高いところからジャンプをした後、ピアノの前で歌詞を見ながら園歌を歌う。Nに外に行くことを伝えまたひとりにした。五分ほどで戻りしばらく遊んだが、Nがひとり遊びに入ったのでまた「外に行ってくるね」と言って園庭に出た。私が飛行機ジャングルに着くか着かないうちに後ろの方から上履きのままNが小走りにやってきた。泣いている。「ああ、寂しかったんだなあ」と思い抱きしめた。めそめそして私から離れないが、Nの好きな遊びを二人きりでして少し落ち着いたようだ。飛行機ジャングルにE、N、私の三人で乗った。NはEのことが気になるようで「I・E」と帽子の名前を見て言ったり、視線を送ったりしている。嫉妬心もあるだろうが、近い存在にも感じているようだ。お帰りのお集まりの時、今日は私が本を読んだ。膝の上に座りたがるNを対面する椅子にひとりで座らせたが、途中で私の膝の上に座ろうとする。急いでT先生がNを膝の上に乗せようとしたが、声を出して泣きだしてしまった。本読みをT先生と交代し、Nを膝の上に乗せ安心させた。帰り際、Nに「新しいお友達がきてもNちゃんの事は大好きだから大丈夫よ」と三回言った。分かったのか分からなかったのかは分からないが、少し落ち着いたようにも感じられた。NにとってEは刺激ある存在になると思う。N、E、私で楽しさの増す時間が持てるような気がする。

十二月三日（金）

ひとりにする時、「先生は～にいるよ」と伝えておくと、遊びが一段落するとひとりでその場にやってくる。Eがきてから私が「いくよ」というと本当に行ってしまうことが分かるようでテープや絵本を抱えて急いでついてきたりする。今はNのわざと動かないという行動はなくなっている。

十二月四日（土）

遊戯室で園歌の歌詞を見ながら歌う。今日はピアノで園歌を弾いている。自分で歌って音をとりながら単

音を弾いている。音楽には優れているとつくづく思う。

十二月六日（月）

二人でブーツ作りをした。セロファンテープを切ることは余りうまくない。それでも以前に比べると「やろう」「つくろう」という意志が見られることは違ってきた。ブーツができあがるととても嬉しそうにしている。最近私がほめるとNも快さを感じているように思う。私がEと違う場所に行ってしまう時やNの要求に応えられない時、Nはそのことが分かるようだ。いままであまり関わらなかったT先生に自分から寄って行き、「だっこ」とか「おんぶ」と言ったりした。Nから遊びに誘っていけるようになるなんてすごいなと思う。Eがきてくれてのプラスの面だと思う。Eにはやはり特別の思いがあるらしい。Eを見て「I・E」「Eちゃん」と言っている。他児に対してはそういう接し方はあまりなく、珍しい。

十二月七日（火）

好きな遊びを存分にやっている。必要な時は手を引いたり「Yせんせい」と言ったりする。私のいるところにひとりでくることはできるが、お部屋にいて「～へ行っておいで」というのはまだできない。ひとりで遊戯室に行ったりするのは不安なのだろうか。ただ一緒に行ってすぐ私がお部屋に戻ってきてもひとりでやりたいことをやっていられる。

十二月十七日（金）クリスマス誕生会

ほし組の発表が合奏でよかった。Nは皆に合わせてリズムを打っていた。卒園式のことも考え、なるべく行事で椅子に座る時は立たせないようにしたい。前半、私がピアノを弾いてNの視界から隠れた時は座っていられたが、私が近くに行くと甘えが出てしまうようで立ち上がり側にこようとする。終業式にはNに見つからないようにし、ひとりでがんばらせてみよう。

十二月二十四日（金）終業式

部屋の中は何も遊ぶものが置いてない。Nも何かを感じたらしくいつもなら脱ぎたがらない園服を脱ごう

としている。「今日は脱がなくていいのよ」と言っても「Y先生、ボタン」と言ってくる。式の間、M子とY子に手をつないでいてもらった。慣れてきたのか友達と手をつなぐことをいやがらなくなった。

（続く）

園服の脱ぎ着や排せつのような生活面でのことや相手の顔を見て言葉を話せるようになることなどY先生はNちゃんにいろいろな練習をさせている。交流クラスの中でひとりで座っていることなどは、かなりNちゃんにとって難しいことである。これは、未来のために今訓練することと一見同じように見えるが違うものだと思う。未来のための今という捉えは、こちらが描いた未来の姿、目指すゴールまでレールを敷いておいて、相手にその上を歩かせようとすることである。そこでは相手の今、今その子がここで生活していることに価値がおかれていない。しかし保育者が願いを持ってかかわることは、今から出発している。日々の生活を共にしていく中で、保育者が彼女の今の苦しさやつらさを共有しているからこそ、彼女の中で育って欲しいことを自分の願いとして表現するのである。これは障害というものに責任を転嫁せずに、今の彼女と自分の関係の責任を自分が背負おうとすることだと思う。障害児だから訓練しなくてはならないとしてしまうのは簡単だ。障害児だからと「特別」扱いしてしまうことも簡単だ。しかし相手の思いをくみ取りながら保育者が自分の願いを表現する関係を作っていくことは難しい。こうあって欲しいと願っても相手の思いとズレて修正しなくてはならないことも多い。しかしそのような関係の中でこそお互いが育っていくことが、記録を読んでいると確信させられるのである。

（お茶の水女子大学）